



日本SPF豚協会だより

2021. 1
No.82

提 言

多様性について

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究部門 部門長

筒井俊之



11月の初めに上越にある雨飾山に学生時代の友人と登ってきました。あまり人が入らない登山ルートから登ったので、山頂までは誰一人会うことなく、久しぶりの登山を満喫できました。ちょうど秋も深まってきた時期でしたので、山頂付近からは結構な深さの雪道でしたが、途中、見下ろした山はまさに紅葉真っ盛りで、色とりどりの木々は目を見張るような美しさでした。また、山頂や周辺の山々には雪を頂いた景色が広がっており、麓から頂上までまさに様々な色に囲まれた多様な世界が広がっていました。近年の日本の山はスギなどの植林した山が目につくのですが、様々な色を育むこの木々の多様性こそが本来あるべき自然の姿なのかもしれません。

日本には7000種類の植物があり、そのうちの4割が日本にしかない固有種だそうです。このような多様な種類からなる植物相は気候の変化や病気の流行に強く、保水力や生態系の維持を通じて、長期的に我々の生活を支えていると言われています。一方で、人の活動が生物多様性に問題を起していることも、明らかになっています。北米の肉食動物の食餌に関する炭素同位体を用いた最近の研究によると、キツネなどの多くの肉食動物がゴミ箱から得た食べ物など直接的、間接的に人の食物源に依存しているそうです。論文では、このような人の関与は種間競争や生態系に影響を与え、肉食獣と人との接触機会も増加させているというものでした。また、先日、生物多様性に関する国際組織であるIPBESが生物多様性とパンデミックに関するワークショップの報告書を公表しました。その中で、人の活動が生物多様性の減少や気候変動のような地球環境に影響を与え、ひい

ては感染症のパンデミックにつながっていると報告しています。エボラ出血熱やジカ熱などの新興感染症や、インフルエンザやCOVID-19などの世界的なパンデミックを起こす感染症の7割が動物由来と言われています。人の活動範囲の拡大が野生動物の生息状況に影響を与え、人との接触機会が増加することにより、野生動物が持つ新たな病原体が人で流行するリスクが高まっているというものです。このようなことは、家畜疾病の分野においても起こっています。明治期以降の森林伐採によって個体数が減少していたイノシシは、森林利用の減少に伴って増加基調に転じ、現在では30年前の3倍以上に増加していると推定されています。豚熱やアフリカ豚熱の流行においては、イノシシが感染源として重要視されており、発生地域の養豚場において、これらの野生動物との直接的、間接的な接触機会を減少させることが重要な課題となっています。

多様性に話を戻すと、養豚業においても、小規模～大規模経営、肥育・一貫・繁殖経営、個人・法人経営などその経営形態には様々なものがあります。一方、前回の家畜伝染病予防法の改正で、アフリカ豚熱の発生時に周辺農場の予防的処分の実施が法的に可能となりました。このことは、自農場の侵入防止対策のみならず、地域全体での衛生対策の底上げがより一層必要とされていることを意味しています。地域内の農家の衛生対策レベルに差(多様性)があることは、動物感染症の流行においては、地域全体にとって大きな被害を生むリスクをはらんでおり、好ましいものではありません。疾病の侵入防止に関わる衛生対策は、地域全体として一様に徹底することが望まれています。

セミナー中止に伴い 成績優秀CM農場表彰式は 現地で開催 年次報告と合わせホームページで動画公開中

前号でもお知らせしたとおり、今年度のSPF豚セミナーは中止としました。例年セミナーで執り行われていた成績優秀CM農場の表彰式は、受賞農場の地元へ外向き無事開催することができました。当日の様子は濱岡隆文選考委員長(認定委員長)の選考結果・講評とともに、協会ホームページにて公開中です。恒例のCM農場生産成績年次報告も同様に配信しています。ぜひご覧下さい。

●表彰農場選考結果・講評

濱岡隆文・表彰農場選考委員会委員長
(SPF豚農場認定委員会委員長)

まず、養豚を取り巻く衛生状況について。国内の豚熱が終息しない中、2019年3月から野生イノシシへの経口ワクチン投与が取り入れられ、同年秋から感染イノシシが分布する地域を中心として農場飼養豚へのワクチン投与が開始された。それに伴い、種豚等の流通が制約されるなどの不都合はあるが、養豚場における豚熱の発生は効果的に抑制されている状況と思われた。しかし2020年9月、群馬県の養豚場において国内で半年ぶりとなる豚熱が発生。屋外の飼養箱に防鳥ネット等がなかったこと、車両消毒が不十分であったことなどが発生の要因ではなかったかと推測され、さらに他疾病による事故率の高さに伴わず早期治療ができなかったことも指摘されている。家畜伝染病予防法が改正され、飼養衛生管理基準の強化が叫ばれたばかりの中で起きた出来事で、養豚生産者が改めて襟を正す必要があるとの教訓を与えた事例だ。認定農場にとってもあり得ないことだと侮ってはいけないのではないかと。協会だより81号、農研機構動物衛生研究部門の山田俊治先生の「提言」にはまさに時機を得た指摘がある。会員にはぜひもう一度読み返してもらいたい。

生産成績は、生産者の豚を健康に育てる熱意と情熱、苦労の上の実る果実だと思っている。全国の農場を取り巻く外的環境、内的要因はさまざまだが、いきものを生み育てるには科学的な合理性とそれを根拠とした不断の努力が必要である。この表彰制度は現場での努力に報いる場であることはむろんのこと、多くの農場にとっては改善のヒントを得る場であろう。改善の波が広がっていけばSPF養豚発展のための一里塚としての意味があると考えている。

総合生産成績最優秀秀農場

株式会社 広島ポーク (広島県、全農畜産サービスピラミッド)

2年連続の受賞である。昨年、3年連続Aグループに属するという表彰対象農場の条件をクリアした広島ポークが初登場、初優勝

という快挙だった。昨年の講評で、施設・管理ともに整えた環境、高品質の種豚の導入、飼料設計を含めた高度な飼養技術で管理すれば、SPF豚としての理想的な成績を実現できるということを示してくれた農場の努力に大きな価値がある、この成績を長く維持してほしいと申し上げた。そしてこの2年連続の栄冠である。表彰対象となるAグループ農場は16農場、前年度より3農場減少した。復帰が1農場、新規が1農場である。3年連続して成績を維持する難しさを表している。

広島ポークの総合生産指数は前年度より1.1ポイントアップした。単年度においても指数130を超えるのはまだまだ困難な中、3年連続で130超えの農場は3農場ある。全体としてA薬品費が増加傾向というマイナス要因がある中、多産系母豚を活かし切る管理技術など、成績上位集団のレベル向上がみてとれるのではないかと。

広島ポークの最も特徴的な点は「子豚を死なせず育てる」ことである。高い技術を持ち、それを十分に発揮できる従業員の知識レベルと情熱が農場全体で共有されている体制があるのだろうと推測する。

1母豚当たりの哺育開始頭数はAグループの中で決してずば抜けた数字ではない。しかし離乳頭数が全く落ちることがない。1母豚当たり肉豚出荷頭数も上位である。つまりA薬品に頼ることなく、哺乳からほとんど事故なく離乳、育成、肥育を経て出荷へとつなげる優れた管理技術を持っていると高く評価できる。

商品化頭数最優秀農場

農事組合法人 八幡平ファーム(岩手県、全農畜産サービスピラミッド)

対象農場は前年度より1農場減少し9農場。うち復帰1農場、新規1農場であった。

八幡平ファームは堂々の6連覇、この9年間で8度目の受賞である。この偉業には10年以上のトップ成績維持が必要であり、関係者一同の日々の改善努力の積み重ねが結実しているものと考えられる。すべてのステージにわたって全国の農場に参考となるような管



左から、(株)広島ポークの永野雅彦社長、同小林智さん、北島克好協会会長

理のノウハウがぎっしりと詰まっているのだろう。繁殖から育成、肥育にわたるまで極めて優秀な成績であり、総合生産成績部門の広島ポークとの差はA薬品費のみといえる。

最後に、今回の選考対象となった2017年度～2019年度の成績について総括的なポイントを申し上げたい。

総合生産成績部門、商品化頭数部門とも対象農場が前年度より減少した。また2割5分から3割が入れ替わっている。この表彰基準は、落ちるのは簡単だがBグループからAグループに上がるのは簡単なことでない。SPF養豚の本質は、設備・管理の基準を標準化して抗菌剤（A薬品）に頼ることなく、病気の発生を抑制、コントロールし、健康な豚を育てる飼育管理システムにある。抗菌剤の使用量は経営者、管理者の意志によりコントロール可能である。生産指数にも大きく影響する。豚熱の発生、アフリカ豚熱の脅威により、家畜伝染病法が改正され、飼養衛生管理基準の遵守が厳しく求められる時代である。従前から農場のバイオセキュリティシステムとして極めてハイレベルな管理をしている認定農場であるから、本来過度に抗菌剤に頼る必要はないシステムを持っている。加えてAMR（薬剤耐性）対策として抗菌剤の使用量の低減が世界共通の政策目標となり、社会の要請となっている。A薬品費の低減を農場の改善目標に掲げていただきたい。

1母豚当たりの哺育開始頭数が30頭を超える農場が増えており、一段と進歩している状況にある。これを表彰農場のように各ステージの管理技術の向上で、しっかりと出荷まで事故なく管理できるようになればSPF養豚の優位性を大きくアピールできるのではないか。

最後に、2月以降新型コロナウイルスの流行により、人の往来や物流が大きく影響を受ける事態となり現在に至る。さまざまな制約の中、会員、ピラミッド、関係者の苦労と努力に敬意を表す。先行きの見通せない状況が続く中でも、豚も人もしっかりとした感染対策を徹底して、この難局を乗り切っていただきたい。

●総合生産成績部門最優秀農場表彰式

令和2年10月20日、広島県三次市の三次ワイナリー研修室にて執り行いました。

北島克好協会会長より、(株)広島ポークの永野雅彦社長に表彰状が、同農場の小林智さんにトロフィーが、それぞれ授与されました。



左から、(農)八幡平ファームの福島場長、阿部組合長、大泉俊昭常務理事

小林さんは受賞の挨拶で「心より感謝申し上げたい。3年前はまだまだ現場も自分自身も未熟だった。昨年に引き続き受賞できたが、当時一緒に働いていた従業員11名は今も全員活躍してくれている結果が表れた受賞だと思う。SPFという飼養管理の指針があるから、迷うことなく業務に邁進できていると思うので協会に感謝している。まだまだ勉強している立場だが、養豚業界は豚熱・アフリカ豚熱・コロナ対策に迅速に対応していかなければ生き残っていけないと感じている。この受賞が終わりではなく、継続していくことが広島ポークの力となり信頼を勝ち得ることになる。SPF豚協会の理念に「消費者においささと安心を届けることに全力を尽くします」という言葉があるが、農場側もこれをコミットとして全力で突き進んでいかなければならない」と決意も新たに述べられました。

●商品化頭数部門最優秀賞農場表彰式

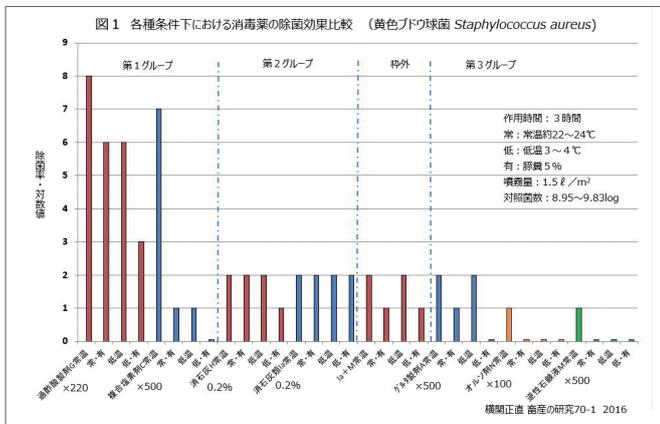
令和2年10月28日、岩手県盛岡市の全農岩手県本部会議室にて開催されました。

農事組合法人八幡平ファームの阿部正樹組合長に表彰状、福島大輔農場長にトロフィーが北島会長より授与されました。

阿部組合長は「今年もまたこの賞をいただけたのも関係各位のご指導とご協力の賜物であり感謝申し上げたい。何よりも現場でがんばった福島場長はじめとする従業員の努力のおかげであり、仲間に恵まれたと実感している。コロナ禍において国産豚肉の重要性がますます高まっていると考える。講評にもあったが、健康な豚を育てることに一丸となって頑張っていきたい。我々の農場の目標もおいしい豚肉の基本である健康な豚を育てることにある。これからもおいしい豚肉、安全安心な豚肉、潤沢でばらつきのない豚肉を生産していきたい」と挨拶されました。

また、福島場長も「結果を出すために日々頑張っている現場の職員が切磋琢磨、試行錯誤の中で、0.1でもいい数字を出そうと努力している。昨年度、1母豚当たり肉豚出荷頭数29.3頭という数字が出て、今年度も近い数字で推移している。いち早く30頭の舞台を達成することを目指して、今後とも一生懸命頑張っていく」と力強く述べられました。

有機物の存在と作用温度が消毒薬の効果に影響することは既にご存じと思いますが、具体的にどのような影響があるか黄色ブドウ球菌と豚流行性下痢(以下PED) ウイルスに対する実験結果を紹介します。



① 有機物と温度が黄色ブドウ球菌に対する各種消毒薬の除菌効果に及ぼす影響(図1: 横関正直2016)

常温、低温、有機物ありとなしの4条件で9桁(10億レベル)の菌を何桁減らせるかをみたものです。過酢酸製剤G(220倍希釈:過酢酸250ppm)は常温・有機物なしで8桁低減し(残菌は1桁で10個レベル)、常温・有機物ありと低温・有機物なしで6桁、低温・有機物ありで3桁低減しました。複合塩素剤Cは常温・有機物なしでは7桁低減しましたが、それ以外では1桁以下しか低減しませんでした。その他の薬剤は何れの条件でも2桁までしか低減しませんでした。逆性石鹼液Mは単体の効果に比べて消石灰製剤Ia 0.2%(水酸化カルシウム約97%)を添加すると除菌度は上がりますが、この菌に対しては混合するまでもなく消石灰製剤単体の方が効果的なことが分かります。

第4回

農場バイオセキュリティ強化のための最新情報

有機物と温度が消毒効果に及ぼす影響

アニマル・バイオセキュリティ・コンサルティング(株)
三宅眞佐男

図2 豚流行性下痢 (PED) ウイルスの不活化効果

作用温度	FBS濃度(%)		薬 剤											
	添加量	混合時濃度	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
常温	0	2.5	+++	+++	++	+++	+++	+++	+++	+++	-*	-*	-	-
	20	12.5	+++	+++	++	+++	+++	+++	+++	+++	-*	-*	-	-
	40	22.5	+++	+++	+	+++	-	+++	+++	-*	-*	-	-	-
氷温	0	2.5	+	-	++	+++	+++	+++	+++	+++	-*	-*	-	-
	20	12.5	+	-	++	++	-	+++	+++	-*	-*	-	-	-
	40	22.5	-	-	+	+	-	+++	+++	-*	-*	-	-	-

+++：感染価が4.0 log₁₀以上低下 ++：感染価が3.0 log₁₀以上低下
 +：感染価が2.0 log₁₀以上低下 -：感染価が2.0 log₁₀未満 ※ウイルス量：10^{7.25}TCID₅₀/ml
 ※ウイルス液と薬剤とは1：1に混合し、反応時間10分後のウイルス量を測定
 ※FBS:牛胎児血清。ウイルス液を含むFBS濃度は5%なので混合直後は+5+2となる
 * H,I：本実験方法ではpHが10以下に低下したためと考える

薬 剤	成 分	実験濃度(倍)	使用濃度範囲(倍)
A	グルタルアルデヒド製剤	主成分20%	160
B	"	主成分25%	200
C	複合塩素剤	KHSO ₅	500 (200ppm)
D	シクロイソシアリル酸ナトリウム製剤	有効塩素0.6g/g	300 (200ppm)
E	逆性石鹼液	主成分10%	500
F	過酢酸製剤	過酢酸濃度5%	200 (250ppm)
G	"	約5.7%	220 (250ppm)
H	防敵消石灰	純度約70%	500
I	水酸化カルシウム製剤(純度97%)	純度約97%	500
J	二酸化塩素製剤	錠剤(0.57g)	1750 (35ppm)
K	ヨード剤	有効ヨード2.6%	500
L	次亜塩素酸Caほか製剤	一重塩素素	1000

三宅眞佐男, 畜産の研究 71(8) 669-676, 日本養豚業獣医師会報 (28), 38-41, 2018

② PEDウイルスに対する各種消毒薬の不活化効果(図2: 三宅眞佐男2018)

本実験では有機物(FBS:牛胎児血清)5%を含むウイルス液と消毒剤とを1:1で混合10分後のウイルス量を測定しています。消毒液と混合後の有機物量は最大22.5%、反応温度は常温(20℃)と氷温(0.5℃)です。ウイルスの減少が4桁(log)以上(千万のウイルスを千レベル以下に減少)の場合+++とし、EUの基準に従い有効と判定しました。使用した薬剤濃度は使用範囲の最も濃い濃度です。

常温では多量の有機物存在下で有効なグルタルアルデヒド製剤は氷温では極端に不活化できないこと、逆性石鹼液のEは常温でも氷温でも有機物の量が少なければ有効なこと、塩素系のD(有効塩素濃度2000ppm)は低温でも有機物が少なければ有効ですが、同じく塩素系のCは有効塩素濃度が200ppmのためかD剤ほどの効果を示しませんでした。過酢酸製剤は何れの設定条件でも有効でした。

○以上の様に消毒薬は温度と有機物の条件により消毒効果が変わるので、消毒薬を選択する際には注意が必要です。

○消毒薬の耐性菌：最近MRSA(メチシリン抵抗性黄色ブドウ球菌)が注目されています。

消毒薬には抗菌剤と同様に耐性菌が存在するのですが、高島1)は黄色ブドウ球菌209P株を11代継代しても耐性菌は出現しなかったと報告しています。また、辻2)は「消毒薬が効かないとは消毒薬耐性菌が出現したのではなく、その多くが消毒薬に触れていないためであり、消毒不十分なためである」とし、常用使用濃度において耐性菌を認めていないと報告しています。

1) 高島浩介(1979) 畜産用消毒薬の耐性獲得性試験. 畜産の研究. 33(6)781-782
 2) 辻明良(2004) 消毒薬抵抗菌の問題点とその対策. 花王ハイジーンソリューション. 6.11-13

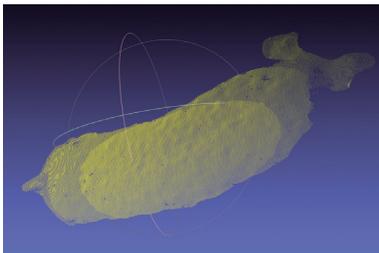
TOPICS

豚体重推定システム 「デジタル目勘」のご紹介

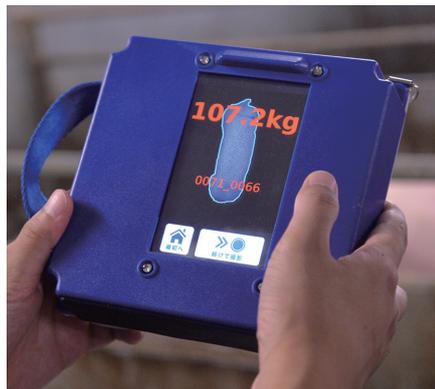
伊藤忠飼料株式会社 業務部
情報システム開発チーム チーム長
福永和弘

当社とNTTテクノクロス様で共同開発し、令和元10月から発売開始した豚体重推定システム「デジタル目勘」は、令和2年12月末時点、25都道府県で採用され、全国普及率6%を達成し、利用農場が急増しております。

デジタル目勘は右画像のように豚の外観形状を瞬時に、立体的に記録できる世界初の装置であり、cm単位で計測可能です。撮影した画像には様々なものが映り込むため、画像処理により対象となる豚1頭だけを抜き出すのがNTTテクノクロスの独自技術です。



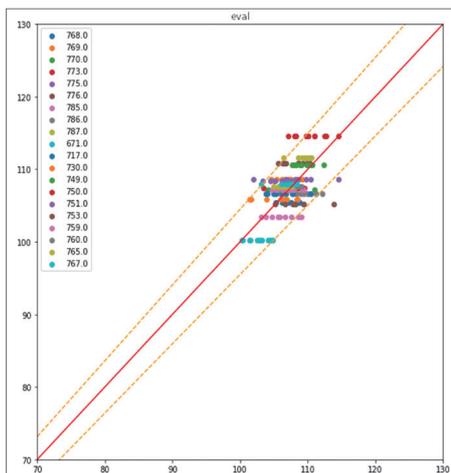
これまで蓄積した数千頭分に及ぶ豚外観と体重を基に、



AI（機械学習）により構築した体重推定モデルと抜き出した豚外観を照合し、推定体重値を画面に2.8秒以内で表示します。携帯型端末による体重推定の実現は

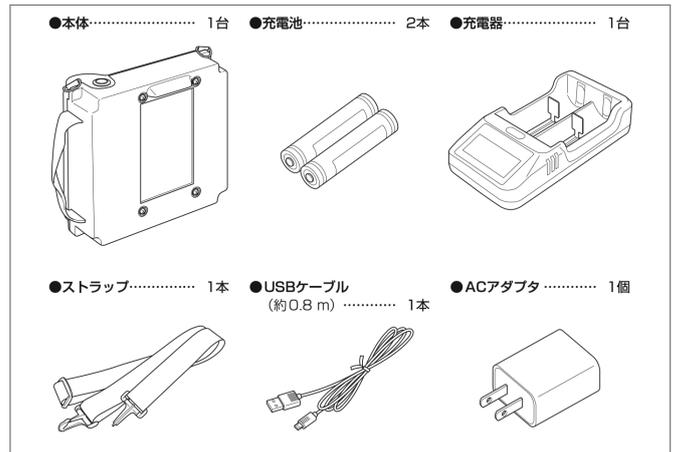
デジタル目勘が世界初です。

推定精度について解説します。デジタル目勘の性能は、「精度」と「確度」の2つで語ることができます。「精度」は実体重と推定体重との誤差であり、「確度」はその再現性を指し示します。デジタル目勘は指定条件において、4.5%以内の誤差で90.75%の再現性を誇ります。右グラフはその試験結果です（縦軸が実体重、横軸が推定体重）。



製品仕様は以下の通りです。

製品仕様	
製品名	デジタル目勘 [®]
構成	ソフトウェア、専用端末、充電器、充電電池2本、ストラップ
寸法	W175×H172×D145(mm) (突起部除く)
本体重量	約837g(電池重量を含む)
電源	リチウムイオン充電電池(3.7V、3500mAh)
連続動作時間	約2.5時間(充電電池1本当たり)
使用可能温度	周囲温度:0°C~40°C、湿度:0~80%



充電電池が2本付属、1本で約2.5時間駆動が可能です。本体は約837gと片手で取り回し可能な重さであり、本体材質はポリカーボネートを使用し、IP22相当の防塵防水性能を有します。

価格は以下の通りです。

システム価格(税別)	
ソフトウェア利用料	15,000円/月・台
端末本体	518,000円/台

デジタル目勘はソフトウェアとハードウェアが一体化したシステムであり、ソフトウェア利用料が月額1.5万円、そのソフトウェア利用に必要な端末が51.8万円となっています。

<問い合わせ先>

伊藤忠飼料株式会社
飼料事業本部 飼料事業統轄部 飼料営業チーム
TEL:03-5626-3231

協会からのお知らせ

●薬剤耐性（AMR）対策に取り組みましょう

今号2ページの濱岡選考委員長の講評にもある通り、AMR（薬剤耐性）対策として抗菌剤の使用量の低減が世界共通の政策目標となり、社会の要請となっています。我が国でも平成28年4月に「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」を策定し、人と動物などの関連分野が協働して対策を推進しています。アクションプランに基づき、毎年11月を「薬剤耐性対策推進月間」に位置付け、推進月間を中心に薬剤耐性に関する知識や理解を深めるための国民的な運動を展開してきました。12月には日本医師会・日本獣医師会による12回目の連携シンポジウムも開催されました（Webによる動画配信形式）。

農林水産省でも、これまで行ってきた獣医師や関係団体への普及啓発に加え、今回、新たに愛玩動物の飼い主の方向けに農林水産省公式Twitterにて抗菌薬の使用等薬剤耐性対策に関する情報発信を開始しました。

農林水産省 公式 Twitter

https://twitter.com/MAFF_JAPAN

抗菌剤の適切な使用方法と使用量の低減をはじめとしたAMR対策を心がけましょう。



●協会ホームページで動画や協会だよりのバックナンバーが閲覧できます

今号2ページでご案内の通り、協会ホームページで動画配信を開始いたしました。

例年SPF豚セミナーで発表しているCM農場の生産成績年次報告をはじめ、表彰農場の選考結果や講評、表彰式の模様などがご覧いただけます。

また、かねてよりご要望のあった協会だよりのバックナンバーもホームページでご覧いただけるようになりました（PDFファイル）。

協会ホームページ

<http://www.j-spf.com/>

にアクセスいただき、トップページの「video」や「archive」のアイコンをクリックすると掲載ページになります。ぜひご覧いただき、今後の内容などについてのご意見・ご提案等、協会までお寄せください。

j.spf@nifty.com

お待ちしております。

認定情報

●令和2年12月認定農場（有効期間：令和2年12月3日から3年9月末日まで）

※9月の認定委員会において3か月間の認定期間延長が認められ、今回認定された農場

宮崎県・(株)ナンチクファーム守山北郷農場、鹿児島県・(有)

新留養豚、鹿児島いずみ畜産(株)江内農場、高山大規模実験農場生産農場、高山大規模実験農場肥育農場、(有)新留養豚第二農場、(以上6農場)

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



SPFポークの リエット

●レシピ提供・炭焼きイタリアン Orso
オーナーシェフ **桜井孔明** (北海道函館市)

「リエット」とはフランスの伝統料理で、角切りにした豚肉をしっかり煮込んでペースト状にする保存食だそうです。バケツなどにつけていただきます。素材の良さが引き立つおしゃれなレシピです。ワンランク上のおうちごはん、おつまみにいかがでしょう。

●材料 ● (作りやすい量)

SPFポークばら 500g
玉ねぎ 150g
ニンニク 3片
白ワイン 200cc
ブイヨン 200cc
ローリエ 1枚
ローズマリーお好みで1本
塩・こしょう 適宜

●つくり方 ●

① 薄切りにしたニンニクと玉ねぎを色づかないようしんなりするまで炒めます。

- ② ①にぶつ切りにした豚肉、ワイン、ブイヨン、ローリエ、ローズマリーを入れ弱火で煮込みます。
- ③ 肉がへらで軽く崩れるくらい柔らかくなったら、ザルで液体と固体をボールに分けます。
- ④ 固体の方を冷やしながらへらで潰し細かくしていきます。塩コショウで味付けします。
- ⑤ ④に液体を少しずつ入れながら混ぜていきます。
- ⑥ ペースト状になったら出来上がりです。
- ⑦ パンを添えて盛りつけます。

★桜井シェフからのアドバイス

個体と分けた液体は脂だけになるくらいしっかり煮込み、旨みを肉にしっかり入れる事！

認定情報

●令和2年12月認定農場

(有効期間：令和2年12月3日から3年12月末日まで)

北海道・ホクレン滝川・スワインステーション、全農飼料畜産中央研究所上土幌種豚育種研究室、(有)道南アグリ、富良野スワインファーム(有)、(有)サクセス森、青森県・(有)ふなばやし農産、同繁殖農場、同第3農場、神明畜産(株)八戸ファーム、岩手県・(有)ケイアイファーム玉山農場、(株)さいとうふあーむ繁殖農場、同肥育農場、(有)胆沢養豚、カワムラSPFファーム、北日本JA畜産(株)本社農場、秋田県・(有)ポークランド、(株)ユキザワ雪沢農場、山形県・(有)最上川ファーム、宮城県・(株)しまぎ牧場蔵王高原農場、福島県・神明畜産(株)川内ファーム、茨城県・(有)常陸牧場、ピッグファームゴカン、

※次回認定委員会は令和3年3月4日(木)の予定

千葉県・(株)ツナシマ、(株)愛東ファーム銚子農場、同東庄農場、高森養豚、小長谷養豚、(有)菅井物産SPF農場、(株)下山農場岩井農場、同倉橋農場、岡山県・岡山JA畜産(株)吉備農場、同田淵農場、広島県・(株)広島ポーク、大分県・JA北九州ファーム(株)直入農場、同安岐農場、長崎県・大西海ファーム、(有)芳寿牧場口之津牧場、同国見牧場、同島原農場、同新島原農場、同新国見農場、(有)ワールドファーム有明農場、瑞穂農場、宮崎県・ジャパンミート(株)夏尾農場、(有)ナガトモ、(株)ナンチクファーム中川農場、鹿児島県・(有)エクセルファーム湧水農場(以上47農場)

(株)フロンティア
インターナショナル
(神奈川県川崎市)



SPFの
ひと
賛助会員編



▲大貫勝彦会長(左)と渡邊典夫社長
▶会長の娘さんが制作した看板の前で社員の皆さんと。左から3人目が会長夫人で専務の大貫信子さん



創立 30 周年 最新情報で生産者を支えるフロントランナー

東京と神奈川を結ぶ基幹私鉄である小田急線、その沿線の川崎市麻生区に(株)フロンティアインターナショナルの本社があります。

創業者で代表取締役会長の大貫勝彦さんは東京出身、大学卒業後、明治時代から続く老舗専門商社の畜産部門に24年勤務、主に種豚輸入を手がけました。「豚はたまたまだった」そうですが、ドイツの大学での農業実習、1年の半分近くは海外出張という商社マンらしいハードワークを経てスペシャリストに。海外種豚輸入がブームだった1990年に独立、川崎市に会社を構えました。川崎を選んだのは土地勘があったからだそうですが、空港へのアクセスがよく宿泊施設も多いので便利なのだとか。以来畜産資材・機器・種畜等の輸入・販売を中心に事業展開、2020年に創立30周年を迎えました。

その間大貫さんは海外の最先端技術の収集と情報提供で生産者を支えてきました。中でも農場HACCPにいち早く注目。リードインストラクター認定証の番号は5番、取得の早さがわかります。「農水省が農場HACCP推進を決めた時も『やっと来たか』と思いましたよ(笑)」。HACCPのワークショップの先駆けとして指導にあたりました。日本養豚学会の理事も長く務め、学会の養豚功労賞も受賞されています。

縁あって同社のコンサルタントを経て社長に就任した獣医師の

渡邊典夫さんは「企業の30年間存続率は0.02%と言われる中、当社が創立30周年を迎えられたのも大貫会長はじめ社員の努力がお客様に評価していただけたからだと思います」。社員は14名、現場を知る若い社員も育てることに力を入れています。語学堪能な社員も多いそうです。

会社の経理を担当する専務の信子さんとの間に3人のお子さんがいる大貫さん、娘さんの一人は、美術学校で教鞭を執る彫刻家で、本社には看板はじめ豚の木像などがずらり。前述の養豚功労賞のブロンズ像もその作品の一つです。

お孫さんは全部で6人、趣味は庭いじりにゴルフ、バドミントンは毎週欠かさないという大貫さん、「悠々自適ですよ」という一方で、「新しいことを知るというのはとても楽しい。海外の畜産先進国は努力を怠らないから、常に情報収集しています。今日もフランスで新技術が発表されたのを見つけました」。まだまだ仕事中心の日々のようです。

SPF養豚とはかなり早い時期から関わりがあったという大貫さん、「時代を先取りする技術でした。もっとアピールするために、協会がたとえばリタイアした獣医師や技術者などと『SPF学校』のような場を作り、今の生産者が見落としている、気がつかない大事なことを教えるようアレンジしたらいいのではないですか」と貴重なアドバイスをいただきました。(編集部)

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナ一辺倒でした。解決の糸口にたどり着いているのか、判然としない日々は当分続きそうです。業界でも、野生イノシシの豚熱拡散に歯止めが効いているとは思えません。年末には、鳥インフルエンザ騒ぎでした。油断大敵とはよく言ったもの。本当に緩みはなかったのか?アフリカ豚熱の脅威もぬぐえません。防戦一方の感があります。ともあれ、感染症対策は基本を忠実に、確実に、正確に実行するという地道な行動が一番大切で、それこそが攻めの姿勢という事でしょうか(世)。



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第82号 2021年1月1日発行(季刊)
発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail:j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 北島 克好
編集人 藤田 世秀